

鹿沼市におけるインクルーシブ教育

鹿沼市では、共生社会の実現に向け、障害のある子供と障害のない子供が共に学びあい、共に生きていくための力を育めるよう、インクルーシブ教育システムの構築を目指しています。



リーディング・プロジェクト

インクルーシブ教育システムの構築を目指し、多様な教育的ニーズに対応できる学びの場の確保に努めるとともに、**通常学級においても**障害のある子供が在籍している可能性があることを前提に、全ての教科等の学習過程において想定される困難さに対応した指導の工夫を図るなど、特別支援教育の一層の充実を図ります。

すべての先生方が対象です。



地域実践研究事業

鹿沼市では、各校においてインクルーシブ教育システムが構築できるよう、市内の先生方への理解啓発と教員の専門性の向上を目的に、国立特別支援教育総合研究所の「地域実践研究事業」に参画し、下記の取組を行いました。

<平成30年度の取組>

1 教員の専門性を高めるための役割ごとの研修

① 管理職対象の研修会 (H30.7.31 開催)



管理職の先生方がリーダーシップを発揮し、組織的に進められるための研修を行いました。

② 特別支援教育コーディネーター、特別支援教育担当者対象の研修会 (H30.9.28 開催)



特別支援教育担当者としての知識や役割について研修しました。

③ 通常学級担当者対象の研修会 (H30.8.7 開催)



通常学級における物理的環境と人とのかかわりの環境整備について研修しました。

2 リフレットの作成・配布

インクルーシブ教育について広く周知しました



<令和元年度の取組>

1 モデル校（南摩小学校）における校内体制整備や具体的な支援の実践研究



インクルーシブ教育システムの構築に向けて、校内体制や具体的な支援等、実践研究を行いました。

2 インクルーシブ教育の理解と教員の専門性の向上を図るための研修

・ 市内教員対象の研修会 (R元.8.7 開催)



様々なニーズのある子供の学びやすさを観点に、物理的環境と人との関わり方の環境整備について研修しました。

インクル DB
国立特別支援教育総合研究所ホームページ



「インクルーシブ教育システムの構築モデル事業」において取り組まれている実践例について検索できます。



鹿沼市立南摩小学校の取組

鹿沼市と南摩小学校の取組は、
鹿沼市のHPにも掲載しています

① 校内研修体制の整備

- 1 学期
理論研修（計 3 回）
- 2,3 学期
校内研究授業（計 5 回）

② 特別支援コーディネーターの役割の明確化

- 年間運行計画の作成

③ 個のニーズに対応した授業づくり



特別支援コーディネーター役割の明確化

南摩小学校 特別支援教育コーディネーター 年間運行計画

月	校 内	校 外	備 考
1	校内連絡調整 ・校内委員会計画 ・個別の支援計画作成、活用 ・校内研修計画立案 ・SC活用計画、記録 ・校内情報共有連絡調整 ・担任会議 ・チーム会議（臨時）	保護者連絡調整 ・対保護者相談窓口 ・SC活用の周知	関係機関連絡調整 ・こどもサポートセンター（教育支援、教育相談、家庭相談と連携等） ・医療機関（H30） ・福祉関係 ・SS訪問日程調整 等
4	・特別コーディネーター会議立案 ・SC活用計画 ・配慮を要する児童一覧作成	・特別コーディネーター会議 ・家庭訪問時 ・個別の教育支援計画）各属形成	・委員会実施計画立案 ・SS訪問 ・カンファレンス ・市サボセン連携了と連絡 ・数字時連絡調整委員会 ・「数字時連絡」実施計画書共同作成
5	・校内研修計画立案 ・SC活用計画 ・配慮を要する児童一覧作成	・特別コーディネーター会議 ・家庭訪問時 ・個別の教育支援計画）各属形成	・委員会実施計画立案 ・SS訪問 ・カンファレンス ・市サボセン連携了と連絡 ・数字時連絡調整委員会 ・「数字時連絡」実施計画書共同作成

・誰が担当者になっても機能するように
・Coの役割を知ることで相談しやすい体制に

主な業務
内容

実績・変更点は
その都度修正

月別の予定

授業づくり

全校体制での 取組

① 個々の実態把握

- 「よろしくお願ひシート」を活用し、
個のニーズを把握する。
（国立特別支援教育研究所「H29年度特別支援教育専門研修 発達障害・情緒障害・言語障害教育コース研修レポート」を参考に作成）

② わかりやすい授業づくり

- 授業を担当する教員が個のニーズの
視点をもって授業をつくる。

③ 個々の教育的ニーズに応じた支援

- 考え方の転換
（例：一斉指導で皆が同じことができる
→個のできることを増やす）
- 個へのニーズへの対応
（例：視覚的な支援、学習形態の工夫等）
- 通常学級と特別支援学級の連携
- 児童に関する情報の共有



① 実態把握：「よろしくお願ひシート」の活用



② 個のニーズの視点をもった授業づくり

指導案の中で個への手立てを明確化

過程	学習活動	形態	全体の手立て	教師への支援	個への手立て	評価
つかみ	1. 既習事項を確認し、本時の問題をつかむ。	5 全	・2枚の絵を提示し、混んでいるのはどちらか考えさせることで、前時との違いに気付かせる。 ・混んでいると判断であることを、絵や動作を使って実感。 ☆面積が同じでも、ボールの数が同じでも、ボールの数を数え、どちらが混んでいるか考える。 ・数をそろえたり、ならしたりすると比べられることを、ボードと一緒に黒板に提示しておく。 「ならす」という考え方を確認し、マグネットを実際にならして見せる。	教師への支援 ☆学校課題との関連	「混んでいる」と「固まっている」の違いを、絵や動作を使って実感させる。 「混んでいる」と「固まっている」の違いを、色を使って黒板にまとめる。	
見通す	2. ①の面積とボールの数が違うときの面積を比べよう。	12 全	・1人分あたりの面積や、1m ² あたりの個数を数え、面積やボールの数を数え、式や図を使って説明できるようにする。 ☆図が書けたら式で、式が書けたら言葉で表すなど、1つの考え方を色々な方法で表現できるように、声を掛ける。 ☆友達の話や自分の話を聞いて、必ず反応する（なるほど、いいと思います、など）ように適宜声を掛ける。 ・疑問を聞き出し、学び合いをより深くさせる。 ☆全員の話し合いで自分解決できなかったところの問い返しをして、確認をしながら進める。 ・キーワードの色を変えて黒板に提示する。 ・1分程度、自分で考える時間を作り、自分自身の表現で	教師への支援 ☆学校課題との関連	☆学習問題と実生活がつながるように例を挙げながら、学習問題をつかませる。 ☆既習の「ならす」という考え方を確認し、マグネットを使って、実際に全体へ提示した後、横にいったん全体へ確認する。	
自力解決	3. 各自で問題を解決する。	14 全	・1人分あたりの面積や、1m ² あたりの個数を数え、面積やボールの数を数え、式や図を使って説明できるようにする。 ☆図が書けたら式で、式が書けたら言葉で表すなど、1つの考え方を色々な方法で表現できるように、声を掛ける。 ☆友達の話や自分の話を聞いて、必ず反応する（なるほど、いいと思います、など）ように適宜声を掛ける。 ・疑問を聞き出し、学び合いをより深くさせる。 ☆全員の話し合いで自分解決できなかったところの問い返しをして、確認をしながら進める。 ・キーワードの色を変えて黒板に提示する。 ・1分程度、自分で考える時間を作り、自分自身の表現で	教師への支援 ☆学校課題との関連	☆学習問題と実生活がつながるように例を挙げながら、学習問題をつかませる。 ☆既習の「ならす」という考え方を確認し、マグネットを使って、実際に全体へ提示した後、横にいったん全体へ確認する。	
振り返る	5. 考え方を確認し、まとめる。 6. 振り返りを行う。	3 個	・1人分あたりの面積や、1m ² あたりの個数を数え、面積やボールの数を数え、式や図を使って説明できるようにする。 ☆図が書けたら式で、式が書けたら言葉で表すなど、1つの考え方を色々な方法で表現できるように、声を掛ける。 ☆友達の話や自分の話を聞いて、必ず反応する（なるほど、いいと思います、など）ように適宜声を掛ける。 ・疑問を聞き出し、学び合いをより深くさせる。 ☆全員の話し合いで自分解決できなかったところの問い返しをして、確認をしながら進める。 ・キーワードの色を変えて黒板に提示する。 ・1分程度、自分で考える時間を作り、自分自身の表現で	教師への支援 ☆学校課題との関連	☆学習問題と実生活がつながるように例を挙げながら、学習問題をつかませる。 ☆既習の「ならす」という考え方を確認し、マグネットを使って、実際に全体へ提示した後、横にいったん全体へ確認する。	AとCの比べ方について、自分なりに考えたりすることができた。（発表）

課題提示の工夫

教員工夫

学習形態の工夫

評価の工夫

※このリーフレットは令和元年度国立特別支援教育総合研究所「地域実践研究事業」において作成しました。